

教育目標

知・徳・体 調和のとれた人間の育成 （１）広く知識を求め、不断の勉学に努める生徒を育てる （２）自己を大切にすると共に、他者を思いやることのできる心豊かな生徒を育てる （３）積極的に心身の鍛練に努める生徒を育てる

教育重点目標	目標達成のための方策	評価指標	自己評価	学校関係者評価		改善策
					意見等	
（１）つながる力（人間力）の育成 他者とのつながりの中で、多様性を認め、自他ともに大切にすることのできる心豊かな生徒の育成 ・人権感覚を磨き、自他とともに尊重する意識と態度を育成する ・基本的な生活習慣を確立するとともに自律的な生活態度を育成する ・様々な価値観を受容的に受け止める力と相手を意識した対話力を育成する （２）つなげる力（学力）の育成 学んだことをつないで主体的に学習を推進し、自分自身のキャリア実現につなげることのできる生徒の育成 ・学んだことを確かな学力にし、主体的に学びに向かう姿勢を育成する ・対話的で深い思考につながる授業を推進する ・学んだことを整理・統合する力を養うとともに、それを表現する力を育成する	①人権・同和教育に関するホームルームや講演会を通し、人権教育を進め、生徒の人権意識を高める。また生徒の情報共有に努め組織として対応する。	生徒による授業評価4.3ポイント以上 生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	B	A	一人ひとりの生徒が生かされる学校、教員が生徒一人ひとりを知っている学校を目指してほしい。 生徒だけでなく、保護者への情報提供、情報の共有の仕方をきちんとしてほしい。	・最近の人権課題の動向を把握し、本校生徒の実態に合わせて高校3年間を見通した人権・同和教育の充実を図っていきたい。 ・校務が円滑に行われるように校内のネットワークの整備に努めたい。
	②ICT機器などを活用し、授業の工夫・改善を行い教師の授業力を向上させ、生徒の学力を向上させる。	生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	A	A	ICT機が設置されたことで授業や生徒の取り組みがどのように変わってきているのか検証し、より有効な活用となるよう研鑽を深めてほしい。	・概ね良好であるが、公開授業・互見授業等により引き続き授業力向上と授業改善を行い、生徒の学力向上につなげていきたい。
	③定期的に家庭学習調査を実施し、学習習慣を身につけさせる。 個別面談を通し、生徒理解に努め個別指導などを実施する	学習時間調査の結果 60分以上 90% 90分以上 50%生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	B	B	家庭学習時間を評価の基準に入れるのはどうか、生徒の日々の生活の充実度にも目を向けてもよいのではないか。勉強に対する意識付け、手立てをどうするか考える必要がある。	・生徒および保護者とも約3割が家庭学習の不十分さを認識している。家庭学習の必要性と重要性を認識させ、学校と家庭が一体となって、学習習慣を身につけさせるよう継続して指導していく。
	④総合的な学習・探究の時間を中心としたキャリア教育の充実を図るとともに、生徒が課題を発見し、解決に向かって粘り強く取り組むことができる資質と能力を養う。	生徒、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	B	B	総合的な学習・探究の時間は、生徒の成長につながっていると思われる。座学と違い実社会を経験することで将来に役立つ。また世代を超えてコミュニケーションをとる機会でもあるので、しっかり取り組んでほしい。教員の評価が低いことが気になる。教員間で取り組みに差があるのではないか。	・1年次の地域学習は、コーディネータのリードでスタートするため、主体性の点で不十分な感想が出るのはやむなしと評価している。今後、この主体性の育成については、学習の視点も含めコーディネータと協働して検討したい。 ・2年は当初の予定を大幅に変更し、生徒の実態に合った内容に変更したことで、生徒評価が高くなった。ただ、教員としては到達目標の設定をより明確にしていきたい。
（３）つむぐ力（社会力）の育成 社会や世界とのつながりを自覚し、自分自身の未来を地域の未来につむいでいこうとする気概を持った生徒の育成 ・社会や世界の出来事への関心を高め、学んだことや自分自身との関係を意識し、考える態度を養う ・地域課題の解決に主体的に取り組もうとする意欲を高めるとともに、主権者意識を醸成する ・学んだこと、出会ったことを通じて、自分自身の生き方・あり方を支える指針を立てる力を育成する	⑤全校生徒が参加できる織部祭等の行事を生徒会主体で運営し主体性養う。また部活動への積極的な参加を促し、文武両道の実践を図る。	生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	A	A	生徒会・部活動ともによく頑張っている。生徒はやりたいこと（目的）がそれぞれ違って入ってくる。それぞれが打ち込める道をつけてほしい。	・生徒会の主体的な活動と各種委員会活動を充実させ、これまで以上に生徒自らで学校づくりができるよう支援して行く。 ・部活動について、今一度、部活動顧問会で本校の「部活動の在り方の方針」を再確認し、部活動の取り組みについて検討する。
	⑥「進路の手引き」の発行、企業訪問・大学見学等を通し、生徒の進路意識の高揚を図る。 模試分析・進路検討会を充実させ生徒一人一人にあった進路指導を行う。	生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	A	A	進学が課題。部活動や総合的な学習・探究の時間の取り組みを評価し、推薦入学についても積極的に取り組んでほしい。卒業後地元に戻る生徒が少ない。社会人との交流の機会を進めてほしい。	・おおむね良好な評価を得た。生徒面談を通して、きめ細かい進路指導ができた。 ・保護者に対しては、さまざまな通信物によって情報提供を行い、継続的に諸活動の意義を伝えていく必要がある。
	⑦学校便りやホームページの内容を充実させ、地域に対する学校としての発進力を高める。 学校行事等の公開やPTA活動を通して、保護者や地域と連携した活動を充実させる	生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上 保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	B	B	FBがおもしろく充実している。いろんなツールを使い、情報発信に努めてほしい。	・HP内の写真提供を各部署に依頼し、随時更新する。 ・HP担当を増員し、日々の様子をFBだけでなく、HPにもアップし、更新回数を増やす。 ・学校通信、PTA広報誌等の刊行物のHPアップを今後も継続して行う。 ・HPのバージョンアップを、来年度実施の方向で検討中である。
	⑧オープンハイスクールの内容を充実させ、中学生に大東高校の魅力を発信するとともに、部活動の合同練習など中学校との交流連携活動を充実させる	教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	A	A	基礎・基本のできていない生徒が高校へ入学してくる現状がある。学力育成の中高連携を考えてほしい。	・盛夏期であるので、暑さ対策を充分に行い、中学生たちが参加しやすい環境を整える。

評価基準（A・B・C・D 4段階） A：目標達成 B：ほぼ達成 C：達成までもう一歩 D：達成に至らず

○学校関係者評価委員からの主な意見

・風通しのよい職場でなければ、組織としては致命傷になる。自由に意見を述べられるような職場であってほしい。 ・生徒個々の特性を理解してほしい。こつこつやるタイプの生徒が生かされる学校であってほしい。
・スマホ依存や読書量の減少により、読解力や表現力が不足してきていると感じる、しっかりと育成してほしい。